

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人 城南会	代表者	山根 邦夫	法人・事業所の特徴	平成30年6月に開所。利用者や家族の要望、生活等を考慮し、小規模多機能型施設の特徴である、通い、宿泊、訪問等を組み合わせ、在宅生活が継続できるよう柔軟にサービスを提供できるよう心がけております。施設内は少人数の利点生かし、生活リハビリを取り入れ、個人にあった、活動を提供できるようにしています。又、地域にも必要とされる施設であるよう努力していきます。
事業所名	小規模多機能型施設 はんたがわ	管理者	銘苺 孝司		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	人	人	1人	1人	人	2人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	全体会議時に、改善計画が実行できているか評価する。	すべてでは無い、改善計画が実行できるようにミーティングや申し送りでも話し合った。	・全員で自己評価に取り組み、意見も反映されている。	事業所の毎月の勉強会を職員が講師となり行い、スキルアップに努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	城南会本部に相談、協力を得て通りに看板を設置する。	・看板設置しようとしている場所の住民との関係が構築できずに、看板設置する事は出来なかった。	・通りに看板が無く、事業所の場所がわかりづらい。 ・看板は設置してください。 ・玄関は鍵もかかってなく、事業所内も明るい。	包括支援センター繁多川と検討、協力し、通りに看板を設置する事が出来る。
C. 事業所と地域のかかわり	小規模はんたがわの活動内容がわかるように、新聞作成を再開する。	フェイスブックにて活動内容を発信する事は出来たが、新聞の作成には至らなかった。	・フェイスブックで活動を発信しているので新聞は作らなくても良いのではないかと？ ・フェイスブックが見れない高齢者家族には補う形の何かが必要。 ・新聞ではなく写真を配布するだけでも良いと思う。	事業所での活動風景の写真を家族へ配布する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	職員、少人数の利用者と一緒に包括繁多川でもやし販売を再開する。	毎週金曜日にもやし販売を行い、年末に売上金で食事会を開催する事が出来た。	・包括支援センター繁多川の協力もあり、毎週もやしや花壇で栽培したゴーヤー、ネギの販売を行う事が出来た。 ・包括支援センター繁多川が4月から引っ越しする事になった。公民館やサークル活動の場で販売を継続してはどうか？	管理者職員が他事業所の運営推進会議に参加する。



E. 運営推進会議を活かした取組み	職員が交代で、はんたがわ運営推進会議に参加出来る様にする。	職員交代で運営推進会議に参加し、会議の意義、内容を把握するように努めた。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員交代で運営推進会議に参加する事により、会議の意義、地域との関り等、多少は学べたと思う。 ・お食事会、利用者も楽しみにしていると思うので、是非、継続し行って下さい。 	感染対策を行い、利用者家族が多く参加できるように案内を配布する。
F. 事業所の防災・災害対策	災害時の備品（食料、水、布団等）のリストを作成し、数量、賞味期限を把握、管理する。	利用者と一緒に、災害時の食料買い出しを行い、準備、管理する事が出来た。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の一環で、利用者と食料の買い出しも行う事が出来た。 ・賞味期限を管理し、期限が切れそうな食品はフードドライブで、自治会に寄付する事が出来た。 	職員間で防災計画を見直し、避難場所、避難経路、対策等を確認する。